

おでかけ  
りゅうPON!

## 生活に役立つ 新聞活用学ぶ

### 繁多川公民館で勉強会

那覇市の繁多川公民館で21日夜、異業種交流の勉強会「5番線カレライスの会」(NPO法人なはまちづくりネット主催)が開かれ、社会教育関係者や行政職員ら14人が参加した。勉強会では、



新聞の特徴や役割を学びながら、新聞の効率的な読み方などを体感した参加者ら  
21日夜、那覇市の繁多川公民館

普久原均琉球新報社編集局次長兼NIE推進室長が講師を務め、新聞の特徴や役割、家庭や地域など生涯学習の場で役立つ新聞の使い方を紹介した。

本紙記者による出前講座「おでかけりゅうPON!」の一環で、「ニュースの達人になろう!」知って得する新聞の読み方講座」と題して開かれた。

普久原次長は詳報性や解説性、正確性など新聞の特徴に触れ、「新聞は記事や見出しの大きさ、レイアウトでニュースの位置付けをしている」と述べ、インタネット上の情報との違いを説明した。正確な情報を読者に提供するため、情報の裏付けを確実にを行う新聞記者の取材手法を紹介し、新聞の役割として、権力を監視し、市民生活を守ることを挙げた。

参加した蔵根美智子県教育庁生涯学習振興課長は「思考力、判断力、表現力を培うツールとして、学校では新聞活用が始まっている。公民館や図書館など生涯学習の場でも、社会と地域をつなぐ道具として積極的に活用したい」と語った。